

# THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を  
Engage Rotary Change Lives



個々の価値観を尊重し  
自らロータリーを楽しもう

国際ロータリー会長 ロンD. バートン

2013~2014

富津中央RC会長 須藤 隆

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12  
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

## No.2340 第39回例会 2014. 4. 24 晴

点 鐘：須藤 隆 会長

進 行：大網 庄一郎 SAA

ソング：手に手つないで

### 会長挨拶

須藤 隆 会長



皆さんこんにちは。先週理事会で3名の入会候補者について審議した結果入会の要件を満たしているとして、入会が承認されました。早速、会員全員に入会候補者のプロフィールと理事会の決議を通知し、異議申し立ての有無についてお伺いを立てました。その結果7日経過した今日現在、3名の入会に関し、異議の申し立ての書面が届けられておりませんので、正式に5月1日付での入会が決定することになります。3人の方には本日手紙で通知をいたします。当クラブにとっては大変な朗報であり、推薦人の榎本会員並びに高橋会員にはあらためて感謝を申し上げたいと思います。榎本増強委員長が期初に掲げた3名増員の目標達成を全員で喜

びたいと思います。

さて、今月の29日は地区協議会が幕張で開催され、次年度のガバナー方針の発表並びに次年度の各クラブの役員を対象にしたセミナーも予定されております。更に次週の例会では若鍋次年度会長が新年度の会長方針を発表する予定になっております。5月に入ると会長方針に基づき、各委員長及び担当部長はクラブ活動計画案を提出いただき、6月中には活動計画書を作成することになります。残り2か月間は次年度の準備期間と言っていいでしょう。それぞれの次期役員の方はご協力よろしくお願いいたします。

先週の例会で山田幹事が各クラブのバナーをガバナー月信に掲載するので各クラブのバナーの由来を250字以内に纏めるよう要請があったとの話がありました。当クラブのバナー(旗)について、私のような入会年月の浅い会員は意外に馴染んでいないようです。あらためて過去の記念誌をひも解いてバナーの由来を確認しました。それによると、当クラブのバナーは弁天山古墳の型並びに蓋石を日展審査委員の先生に依頼して図案化し、制作されたものだそうです。今まで私自身、ロータリークラブ旗に関心がありませんでした。旗には、いろいろな機能があるようですが、ロータリー旗は国旗や社旗、校旗と同じく集団のアイデンティティや識別を象徴ものとしてどのクラブも設立当初に必ず作成したのだと思います。しかしこの旗は日常ほとんど使用され

〒293-0042 富津市小久保2868  
さざ波館 Sazanami-kan  
2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,  
Zip code 293-0042  
Tel.0439-65-3373 Fax.0439-65-3304  
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



ておらず、今や新しく入会した人もクラブのバナーを知らされていないのが実情のようです。我自信バナーに関する認識が十分でなかったこともあり、バナーに対する思いを新たにしておいて会長挨拶とします。

## 幹事報告

山田 昌雄 幹事

1. 市内3クラブ合同例会について  
日時:5月28日(水)17:30点鐘  
場所:新日鐵住金総合技術研究所  
富津クラブ なの花
2. 堀内ガバナー補佐訪問予定  
日時:6月12日(木)

## 結婚祝い



多田 勇・知子 S59.4.16

## 委員会報告

### R財団

千葉 一利 R財団担当部長



皆様のご協力をおもちまして、財団寄付金が予定通り集まり、送金も完了しました。  
ありがとうございました。

## 家庭集会報告

### A グループ

榎本 守男 会員



4月12日18時より千種新田「割烹 千昇」にて炉辺会合を開きました。

出席者は A グループの小野、渡辺、多田、山田会員と私、B グループの高橋会員 C グループの平川会員の7名でした。小野会員の乾杯でにぎやかな会合の開始となりました。料理は広島産岩蠣のフライ、牛刺し大皿、刺身盛り合わせ等山海の旨い物づくしでした。この日ばかりはダイエットとは程遠くアルコールもすすみました。

炉辺テーマは長期計画に基づく増強の現況と今後の活動、そして、やがて来るクラブ創立50周年記念事業をどのように開催するか等々でした。サブテーマとしては富津中央バンドのスキルアップと活動の方向性でした。饒舌ゆえに話題の花が満開で結論を導くことはありませんでしたが、ロータリーのメンバーとの楽しいトークの時間を満喫しました。その後、2次会もイブにて盛り上がりました。以上

### B グループ

志波 克 会員



4月10日夕刻、君津のプリマヴェーラでB組の家庭集会を開催しました。本来は会員の自宅で行うことでしたが、都合で富津市出身者経営の店にしまし



た。

開催に関する雑役は、一切高橋会員が切り回して下さり、お陰で円滑な楽しい会が出来ました。高橋会員には深く感謝申し上げます。

組員7名中1名欠席で6名になるところ、入会候補者1名と付添い会員2名、それに飛入り会員1名が加わり計10名となりました。

会は、組長より本日の会は親睦が主目的であるとの挨拶の後、乾杯の音頭を入会候補者の方がPTA会長だった時の校長先生・千葉会員が希望して行い、その後全員が各自の現況を中心にショートスピーチをして歓談に入りました。洗練されたイタリア料理とそれに良く合うワインを頂きながらの話は尽きませんでした。予定時間もありませんでしたので最後に皆がもう一度ずつスピーチをして終会としました。

話し合った内容については、ワインの量が多かったせいか思い出せませんが、大変楽しい会であったことをお伝えして報告とさせていただきます。

### Cグループ

原田 雅式 会員



私たちのC班は4月15日に、佐貫の3代目一平さんで開催しました。

メンバーは高島、三井、白石、大網、平川、原田、ゲストの会長加え7名です。

今回のテーマは自由ということで、日頃の例会ではできない、少人数での話し合いです。たまたまこの時に榎本会員増強委員長が3名を今期に加入させるという、お話があり、最初はこの話題で盛り上がりました。このC班でも一人入会させたいと具体的に、お名前が上がりました。杉崎さん(元校長)はどうかと話題となる。その他にも永島会員が今期中に一人加入させたいとの、申し出がありました。

これから具体的にお名前の方を勧誘して詰めをしていきたいと思ひます。この会員増強は難しいテーマで常に意識していないと会員減少となります。退会防止も併せて推進していきたいと思ひます。

### ニコニコBOX

平野 安照 親睦担当委員



\*榎本 守男 3名の新入会を記念して

\* >1,000円 合計 3,000円

### 出席報告

白石 幸久 出席担当部長

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	21/19	17	1	0	89.47%
前回	21/19	15	4	0	78.95%

近隣クラブ例会日 (通常 12:30 点鐘)

月	君津、袖ヶ浦(特別 最終例会は夜間)
火	富津(特別 18:30 10~3月 18:00)
水	木更津東(特 18:30)、富津シティ(特 19:00)
木	上総、木更津

君津 RC	ホテル千成	0439-52-8511
袖ヶ浦 RC	レストラン菜心味袖ヶ浦店	0438-60-1753
富津 RC	宮島本店	0439-67-1178
木更津東 RC	ロイヤルヒルズ 木更津ビューホテル	0438-23-0211
富津シティ RC	新日鐵住金富津クラブ	0439-80-2525
上総 RC	割烹旅館 山徳	0439-27-2003
木更津 RC	東京ベイプラザホテル	0438-25-8888

房総の釣と料理(その1)

桜鯛の松皮造り

桜鯛と言う。桜の咲くころ産卵のため外洋から内湾の浅瀬に集まってくる鯛のことで、これを「のっこみ鯛」とも言う。鯛の一番美味な時期「旬」を指す言葉である。明石周辺の瀬戸内海が有名だ。しかし、江戸前の鯛である東京湾の鯛は時期が少しずれる。旬は季候、潮流、潮温により全国一律とはいかない。山桜が散り、そめい吉野が、八重桜が散り新緑まぶしい4月の下旬頃からのっこんで来る。いわば葉桜鯛か。

房総の鯛釣りは、大きくは2系列に別かれる。紀州から外房大原に大正期ころ移住した人達が持ち込んだ、「ビシマ釣り」と東京湾の竹岡あたりで発達した「シャクリ釣り」の2系列がある。

「ビシマ釣り」は、かみつぶしと言われる、マッチの先程の小さな錘(おもり)を一定間隔で着けた道糸に、親指の頭程の錘に鯛針を埋めこんだ「鯛テンヤ」と言う釣針を結び、手で釣る釣法である。

「シャクリ釣り」は、「手ばね竿」と言う1メートル位の短竿に道糸を巻きつけ、「鯛テンヤ」から6~9メートル位のところへ中錘と言う軽い錘を着けて、竿をシャクリながら魚がかかれば手で道糸を取り、釣り上げる。

いずれの釣法も、手で直接鯛の曳きを感じながら、やり取りをして釣り上げる効率的な釣法であるのと同時に、潮流の強弱によりビシマか中錘の違いであり、潮流に乗せて自然な感じで仕掛けを流すという発想と原理は同じではないか。また、餌も当然のごとく生きた海老であり、海洋民族日本人の知恵と工夫に大いに感心せざるを得ない。

私は内房生まれなので、当然シャクリ釣りの方が得意と言うより、ビシマ釣りは数える程しかしたことがない。まして今はやりのコマセ釣りは余りやる気になれない。

東京湾のシャクリ鯛の釣り場は、富津市の大貫沖から館山市の須崎沖までである。私は最近富浦に行くことが多い。小型から中型が中心だが比較的数量が釣れる。

鯛釣りには餌のつけ方にも特徴が有り、まず、海

老の尾羽を噛み切り、尾から刺した針を返して胸下部分に浅く刺して、海老が後ろに跳ねる姿にしておく。これをシャクリ竿を使ってしゃくることで、海中の餌は常に踊っており、この様が鯛を誘う。鯛が針掛かりしたら、道糸を手にとって大きく2~3手締めて会わせる。大鯛が掛かり竿が上がらない時は、尻手糸を取り、竿は海中に放してやりとりすることとなる。鯛の引きは、会わせの後が一番強烈である。これをしのげば、道糸の強さを超えて力まかせに引っ張らないかぎり、中間は比較的楽である。中錘を取ったあたりで最後のひとのしがある。尻手糸でのやりとりや会わせの後の次にここが難しい。

強い引きに対しては糸を送って対応する必要があるが、鯛を浮かしてきて安心して糸送りが間にあわなかったり、中錘がどこかに引っかかるトラブルがおこりやすいので注意が必要だ。後はタモ取りだが、以外とこの難しさを知らない人が多い。必ず頭から網を入れること。自信がなければベテランに任せないと、余計な恨みを買うこととなる。

さて、スリングな釣の得物の鯛は生けすに生かし、船上がりの時に生き締めにして置く。鮮度を保って持ち帰った鯛は、何と言っても刺身が一番。まして今年最初の桜鯛ならなおさら。うろこを落とし5枚おろしにしたら、皮に布巾を掛けさっと熱湯を注ぎ、素早く氷水に入れ余熱を取る。

これを刺身に曳けば松皮造りのでき上がり。旬の鯛の皮のすばらしい舌触りと、皮と身の間に蓄えられた滋味豊かな脂をすべていただくこととする。野外で、心地よい風に吹かれながら、松皮造りに冷や酒といきたいものである。

